

| | |
|-----------|---|
| 会議名 | 令和5年度 第2回 小牧市介護保険地域密着型サービス運営委員会 |
| 次第 | 議題 (1)地域密着型サービス事業所の役割について |
| 日時 | 令和5年9月15日(金)午後2時00分～4時00分 |
| 場所 | 小牧市役所 本庁舎3階 301会議室 |
| 出席者 | <p>(委員) 佐野 真紀(学識経験者)(リモート) 前川 泰宏(職能団体関係者) 加藤 益丈(職能団体関係者) 福澤 広(職能団体関係者) 竹内 陽子(職能団体関係者) 伊藤 隆(地域における連携・支援体制関係者) 田中 秀治(職能団体関係者、地域における連携・支援体制関係者、地域資源や権利擁護・相談事業等を担う関係者) 山本 敬子(相談事業等を担う関係者) 野口 弘美(職能団体関係者)</p> <p>(事務局) 小牧市 福祉部 介護保険課 課長 水野 清志 介護保険課 給付指導係 係長 加藤 宗礼 介護保険課 給付指導係 主事 松浦 奈美 介護保険課 給付指導係 主事補 本多 壺成</p> |
| 配布資料 | <ul style="list-style-type: none"> ・次第 ・委員名簿 ・「資料1」指定地域密着型サービスの基準等について ・「資料2」地域密着型サービス事業所による地域との連携等に関する状況調査結果 ・「資料3」社協デイサービスでの地域密着型活動 ・「資料4」介護保険最新情報 Vol.953 問28 ・「資料5」サテライト型認知症対応型共同生活介護事業所の基準について |
| 会議の結果 | 小牧市介護保険地域密着型サービス運営委員会が考える、地域密着型サービス事業所の役割について示す。 |
| 質疑応答等(抜粋) | <p>【事務局(水野課長)】 本日は、大変お忙しい中、ご出席いただきましてありがとうございます。定刻となりましたので、令和5年度第2回小牧市介護保険地域密着型サービス運営委員会を開催させていただきます。</p> <p>本日、佐野会長は体調不良のため、リモートでご参加いただきます。</p> <p>なお、本会議は公開となっており、ただ今のところ傍聴者はいらっしゃいません。</p> <p>また、本日は委員9名中、過半数以上の委員が出席されておりますので、小牧市介護保険地域密着型サービス運営委員会設置要綱第6条の規定により本会議は成立しておりますことをご報告いたします。</p> <p>続きまして、資料の確認をお願いします。</p> <p>事前に配布しました</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【資料1】指定地域密着型サービスの基準等について ・【資料2】地域密着型サービス事業所による地域との連携等に関する状況調査結果 ・【資料3】社協デイサービスでの地域密着型活動 <p>その他、机の上には</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次第 ・委員名簿 ・【資料4】介護保険最新情報 Vol.953 問28 ・【資料5】サテライト型認知症対応型共同生活介護事業所の基準について <p>を1枚ずつお配りしております。</p> <p>資料は以上になります。お手元がない場合はお知らせください。</p> |

それでは、次第に従いまして議事を進めさせていただきます。
次第1(1)委員の紹介についてであります。本日、机上に委員名簿を配布させていただきましたが、歯科医師会の佐々木委員の辞退に伴い、令和6年3月31日までの任期で加藤委員に新たにご就任いただきました。

【加藤委員】加藤と申します。よろしくお願いいたします。

【事務局(水野課長)】介護保険地域密着型サービス運営委員会の委員として、ご指導、ご助言をいただきますようよろしくお願いいたします。委嘱状につきましては、時間の都合上、机上に配布をさせていただきますのでご確認ください。

続きまして、会に先立ちまして、佐野会長からご挨拶をいただきたいと思っております。

佐野会長よろしくお願いいたします。

【佐野会長】皆様、すみません。

昨日から体調が悪く、少し熱があったため、本日はリモートで出席させていただきます。

リモートでの司会となりますので、万が一不具合がありましたら、会場のどなたかに司会をお願いし、私も議論に参加させていただきたいと思っております。お願いします。

今回の議論では、事務局でアンケートをとっていただいた内容を基に、地域密着のイメージの共有や、それをどのように地域の施設の方々にお示しするかということをお話できればと思っております。

いろいろ皆様のご経験があると思っておりますので、社会福祉協議会や保健センターとして地域をどうとらえているのかや、地域の中で薬局や歯科医院、病院などをやってこられて、地域との繋がりをどういうふうにしていくとよいかなど、地域密着に必要なこと、また地域密着というイメージについて議論ができればと思っております。

よろしくお願いいたします。

【事務局(水野課長)】ありがとうございました。

では、次第に沿って進めていきたいと思っております。

進行につきましては、佐野会長よろしくお願いいたします。

【佐野会長】それでは、お手元の次第に従いまして進めさせていただきます。

本日の議題(1)地域密着型サービスの役割について、事務局からの説明をお願いします。

【事務局(加藤係長)】それでは議題(1)地域密着型サービスの役割についてご説明いたします。第1回の運営委員会で、地域密着型サービス事業所の役割について近所の喫茶店や学校のような存在ではないかといったお話や、地域密着型サービス事業所に向けてアンケートを実施し、状況を把握してはどうかという議論がされました。そのため、地域密着型サービスの定義づけは難しいですが、今回の委員会では小牧市介護保険地域密着型サービス運営委員会として地域密着型サービス事業所に求める役割を皆様で改めて共有し、その結果を地域密着型サービス事業所にも共有することで小牧市介護保険地域密着型サービス運営委員会が地域密着型サービスとして事業所に求めている役割をお示しできればと考えております。

事前に送付させていただきました資料については、議論の参考にしていただければ幸いです。

限られた時間ではありますが、今回の委員会で事業所への伝え方まで議論できればと考えております。

事務局からの説明は以上となります。

【佐野会長】ありがとうございました。

ただいまの説明について、ご意見、ご質問がありましたらお願いします。

私から質問させていただきますが、今回のアンケートを送った事業所数とそのうち回答があった事業所数を教えてください。

【事務局(松浦)】アンケートを送ったのが、約28か所の全地域密着型サービス事業所で、そのうち回答があったのは11か所の事業所になります。

【佐野会長】ありがとうございました。他にご質問はありますか。

【伊藤委員】はい。まず、資料1指定地域密着型サービスの基準等についてで、第三条と第三十四条が載せてありますが、ここには地域密着して何をやるか、具体的なことは何も書いてないということではよろしいですか。

【事務局(杉浦)】はい。資料1のように具体的なものはないため、小牧市介護保険地域密着型サービス運営委員会としてのイメージを今回共有し、事業所にもお伝えすることで事業所にとってもイメージがつきやすいと思い、委員会を開催しました。

【伊藤委員】要するに、地域密着型サービス事業所の地域との交流について、具体的な例がないため、我々の委員会としては、アンケートを通して、具体的にどうしているのか把握し、その中から具体的な例を他の事業所にも示すことが今回の趣旨でよろしいですか。

【事務局(加藤係長)】伊藤委員がおっしゃっていただいたこともあると思いますが、今回この議題で開催させていただいた趣旨としては、前回の委員会で委員の方々から、いろいろと地域密着型サービスについて議論するのはよいが、具体的なイメージがなかなかできないということで、地域密着型サービスとは一体何だろうかという疑問が委員の中であり、地域密着型サービスの定義づけは難しいですが、例えばこんな感じと具体例を共有できれば、そこに向かっての議論が進めやすいのではないかとのお話があったので、今回開催させていただきました。

【伊藤委員】わかりました。ありがとうございます。

【佐野会長】ありがとうございます。

今日、何をどこまで進めるかということで、大事な確認だと思います。

今日の結論をどこに持ってくかというところですが、今回アンケートが出てきましたので、これを用いて、こういった実践があるということを出しながら、事業所の方に共有していくのか、または、アンケートの中から、我々がこういったことを進めて欲しいというものをグッドプラクティスとして、例を挙げてお示しするのかなどがあると思います。

また、今回のアンケート結果には出てきていないけれども、こういった方法もあるということがあれば、そういったことも含めると良いとも思いますし、考え方として大事なことを示す方法もあると思います。

今日の最終的な結論の持っていく方としてはどうでしょうか。

何名か頷かれています、このような進め方でよろしいですか。

【田中委員】はい。

【佐野会長】では最終的には、具体的なところやイメージ、もしできるならばグッドプラクティスをお示しするところを目標にイメージを議論していきたいと思います。

では、目標に向けて3つぐらい議論できたらよいかと思い、まずは、アンケート結果の感想や気づいたことを挙げていただき、2つ目には、地域の人に受け入れてもらうということ、或いは地域密着のためにはどのようなことが必要なかということで、例えば、病院を運営されている先生方の経営者の視点や、社会福祉協議会や保健センターとしての機関としての視点、それから実際に地域の方と関わっている中での視点から、こういう考え方が必要なのではないかとをお話いただいて、そういったことを踏まえ、地域密着に必要なこと、そしてそれと照らして具体的にこのようなことができるのではないかとこのところを持っていけたらよいと思っています。

他にこのようなことも話してみたらどうかというご提案はありますか。

(特になし)

では、このような流れで進めていき、また必要なことがあればその都度お話できればと思います。

まず、アンケート結果を見て気づいたことや感想などがございましたら、どなたからでもお話いただければと思います。

では、私から述べさせていただきます。アンケートを見るとコロナでいろいろなことができなくなっているという状況は見受けられますが、よくされているのは散歩や買い物、地域の行事への参加、職員の方が地域の神社の清掃に関わること、それから、その事業体として、地域住民に提供していることとしては、講座を開いたり、認知症カフェをやったり、或いは健康体操をするなど、そういったことが中心のように感じました。

全体としては、どちらかというと地域の中にあるものに出向いて参加するというような形のものが、多い印象を受けました。

皆様方は、いかがでしょうか。何かお気づきの点やここに注目したいといったことはございますか。

【田中委員】はい。

この資料を見させていただいて思ったことは、地域密着型サービスの指定を受けていても、まだ地

域密着をわかっていないところが多くあるように感じて、今回の会議をやる中で、最終目的にしている地域密着に必要なことを具体的にお示しするというはすごく意義があることだというふうに感じています。

特に、最初の設問の「地域をどうとらえていくか。」というところに関しては、施設の周辺地域のとらえがあまりできていないように感じて、散歩や買い物などをやっていらっしゃいますが、そういったところで具体的な地域性、地域の顔の繋がりと見えてきていないように思いました。

アンケートの中でも具体的に工夫しながらやっておられる施設もありましたので、そういった例は今後拾っていきるとよいかと思いますし、まだまだ施設の中だけのケアで収めているところもあるので、そういったところには、具体的なことをお示していくとよいかと感じました。

【佐野会長】ありがとうございます。

おっしゃるとおり、地域のとらえ方として物理的な地域としてのとらえ方になっている印象はあります。地域のとらえ方については、保健センターや社会福祉協議会はいろいろなことをやってらっしゃるのではないかと思いますので、そういったことの議論はまたやっていきたいと思えます。

他にお気づきの点や感想がありましたらお願いします。

【野口委員】はい。保健センターとしての地域のとらえ方やアンケートを見て思ったことなどをお話したいと思えます。

地域の特性のとらえ方としては、施設がどこに建っているのか、施設の周りにどのようなお店や道などの社会資源があるのかなどを全部含めて、どうやってそこの人達や社会資源など関わっていきけるか、どうやって関係性を持っていくのかということがあるところとよいうに感じ、アンケートの中だと、地域協議会に参加しているなど、職員がどのようなところに出ていくと地域との顔のつながりができるのかを考えることがとても大事だと思います。地域との顔のつながりがないと施設の周りを散歩するだけになってしまうたり、施設内だけの関わりになってしまうと思えますが、社会資源を知ることによってもっと広く見ることができるのではないかと感じました。

顔の見える関係はとても大事なことだと思っておりまして、例えば、保育園児がよく散歩していますが、その園児がどこの園なのかというのがわからなくて、そのような施設がとてもたくさんあると思われれます。外で見た時に、その人がどこの施設の人なのかかわかり、声がかげられるような関係づくりがよいうに感じました。

【佐野会長】ありがとうございます。

私もただ地域を散歩しているだけでは、交流は生まれないので、もう一つ何かが必要なように感じますし、顔の見える関係というのは、地域の中で施設が関係を作る上ではとても大切なことだと思います。

他にはいかがでしょうか。

伊藤委員はどうでしょうか。

【伊藤委員】人的資源ということから言えば、施設の周りに老人が多いことや、子供が多いこと、それから低所得者が多いこと、富裕層が多いことなどでも施設のあり方や地域密着というのは変わってくると思えます。施設の周りの物理的な物の環境やそこに住んでいる人たちとの環境の中で、地域との連携がどこまで取れるのかは考えなければならぬところであり、反対に連携をとらないほうがよいこともあるかもしれないと考えていました。

民生委員という立場から言うと、認知症の方など自分で十分に動けない人たちとその周りの人がどのように関わっていきけるかということが基本的にあると思えます。

今回のアンケートの中で、他の事業所にも参考になる事例を一つでもお示しできたらよいと思えました。

【佐野会長】ありがとうございます。

地域密着というのが最終的にどこを目指すかということ、その地域に住んでいる方たちが自分の近くの事業所をいいなと思え、あそこに通いたいと思ってもらえたらよいのかと思えますが、おそらく現状としては、自分が認知症になったときに、自分の住んでいる地域の事業所に行きたいとは思わないのではないかと思います。

どちらかというと、少し離れたところの事業所に行って、自分が認知症であるということは周りの人にわからないようにしたい人が多いのではないかと推測します。現状では、認知症であることが社会的に受け入れられておらず、周りの人から少し冷ややかに見られたり、哀れに見られたりするこ

とが起きているのではないかと思います。

しかし、認知症になることは悪いことではないと思いますし、多くの人が通る道なので、認知症になったということが地域の中で受け入れられて暮らしていくことができるようになればよいと私は思います。

そうすると、地域の事業所に通いたいと思ってもらえるようにするには、やはり地域の人たちが認知症の方々を受け入れ、口コミなどであるそのデイサービスやグループホームにはこのような人たちがいて、あそこでこのように暮らしているということなど、その施設の中の状況がわかるとそういったことが周りに伝わって、例えば、誰かが玄関を出て徘徊しているようなことがあれば、地域の人々が声をかけてくれるような関係ができていくとよいと思います。理想論ではありますが、私が考える地域密着とは、認知症や障害、病気があるけれども、施設に来る人たちのことを地域の人も受け入れられるようになっていくとよいと思っていて、私は将来、もし自分が認知症になったらそういった地域で暮らしたいと思いますが、いかがでしょうか。

社会福祉協議会の立場として田中委員はどのように思われますか。

【田中委員】佐野会長がおっしゃるように、自然体でそこに暮らす場としての施設というのが目指すところではあるので、佐野会長が言われたことでよいと思います。

特に地域密着の施設の役割としては、資料1でも定義は出ていますが、やはり地域とどれだけ繋がれるか、関係性を持てるかということ、施設の暮らしの中に醸し出していくということが大事であると思いますし、また、地域密着型サービスは市が指定しているので、地域の中の一つの役割を担えるものとしての施設というような役割も出てくるのではないかと思います。

【佐野会長】ありがとうございます。田中委員におっしゃっていただいた、地域との繋がりや関係性を暮らしの中に醸し出すということは、施設にいらっしゃる方々がその地域を感じられるということも大事です。施設の役割として、その地域の中の一つの役割を担うということもとても大事なところだと思います。地域との繋がりをつくりながら、地域全体で認知症の方々や障害を持った方々がそこに暮らしていけるような地域がつかれるとよいと思います。

【野口委員】今のお話を聞いていて、思い出したことがあります。以前ある地域に施設ができた時に、近所に住んでいる方から、「いろいろな声等がうるさい。」という意見がありました。

それを聞いたときに、施設の方から最初に挨拶や、こんなことをしていく施設であるというような説明はなかったか尋ねると、何も説明はないというようなことがありました。

そのため、近所に住んでいる方々に説明がないとその施設は何をしているところなのか、どういった人が中にいらっしゃるのかがわからず、うるさい施設が来たというようにしか捉えられなかったのだろうと少し寂しい気がしました。やはり、まずは施設としてどんなことをしているのか等をお話しながら、周りの人に理解をしてもらい、どうやってその地域の周りの人と施設との距離感を縮めていくのか、そのためには地域密着としてどのようなことができるのかということで、アンケートにも書いてありましたが、講座を開くや、施設の中でカフェをする等、その周りの人と距離感を縮めていき、その施設はどのようなところなのかを知ってもらうというのが大事だと思いました。

【佐野会長】ありがとうございます。知ってもらうということは大事だと思いました。

前回の会議の時に、地域密着型サービスは近所の喫茶店のような存在という例も出ていましたが、喫茶店は皆すぐに入れるので中のことがわかりますが、施設はそこに通っている人しかなか中に入れられないため、中を知ることができないので、施設側からこういうところだということを積極的に示していかないとなかなか周りの人にわかってもらえないと思います。

そうすると、順序としては、知ってもらうということがまず最初にあり、知ってもらってから例えば顔の見える関係を作っていくたり、地域の中のいろいろな会議に出て行ったりして、その地域の中の役割の一つを担うということをして地域の人たちと繋がっていくというような順序があるように推測されます。

他に何かお感じになっていることがあれば、ご意見いただきたいと思います。

【山本委員】この資料を見させていただいて感じたことは、事業者が自分たちの行っていることにすごく満足してみえるようなところが見受けられるので、他の施設がどのようなことをされているのか、例などを知られると、自分たちも地域の中でどのようなことができるかということ、改めてこれから考えていかれるのではないかと感じました。

【佐野会長】ありがとうございます。もししたら他の施設がどのようなことをされているのか、情報

がないかもしれないので、例を挙げることもよいと思います。
地域の中で病院を構えて、地域の方々との繋がりも深いと思いますが、医師、歯科医師それから
歯科衛生士という立場でいかがでしょうか。

【加藤委員】僕も小牧で開業をして 20 年以上経ちますが、どうやって地域と密着してきたかとい
ことを考えると、正直僕は生まれも育ちも小牧で地元ですから、周りの住民の方は子供の時から
知っている方ばかりで、地域の方と顔が繋がっている状態で開業したため、どちらかという何かこ
ういうことを意識して地域密着を得たというよりは、自然になっていったという感じではあるので何
かよい案が思い当たらないということが申し訳ないです。

先ほど佐野会長が言われたように地域で誰かが夜、徘徊していたら誰かが気にかける等、そうい
ったことはすごく大事だと思います。僕も長く小牧に住んでいて思うのが、人の入れ替わりがあると
どうしてもその地域の地元の人の顔が見えないというのがすごく実感としてあります。地元の夏祭り
等の地域のイベントにも参加する方の割合が減っているような気もしますし、その中でどうやって顔
が見える関係を作っていくのかはすごく難しいとは思いますが、資料 2 を拝見すると施設の方もやは
り地域であるイベントごとには参加するようにしているように感じ、反対に言うと、そこでなかなか
繋がりを広げていったり、認知してもらえたりする機会がないように思いました。そのため、理想で
はありますが、地域密着型サービスの施設が軸になって、その地域の住民の方が集まって何か
できるようなよい案があれば、それが地域が活性化していくことにも繋がっていくのではないかと
いうように感じたので、よい提案がこの会で何か見つかるとういふうに思いました。

【佐野会長】ありがとうございます。

施設は長い年月をかけて、例えば子供の何かを受け入れるようなことがあって、子供がその施
設を知っているような状況になると、みんなが自然に受け入れていけるようになるのかもしれない
ですし、子供の頃から知っていたお話や、子供が生まれて子育てをしながら自然に地域に密着し
ていくお話等から少しヒントをいただいたように感じました。

また、おっしゃるように地域のイベントに参加することでしか接点がないような状況も見受けられま
すので、地域の人に対して何かできるようなことがあるといいかもしれません。

では、前川委員お願いします。

【前川委員】まず、地域密着っていうのはこういうものだというのを共有するものではないと僕は思
っておりまして、ただ、佐野会長が言われたように、グッドプラクティスを提案するというのは、よい
と思いましたが。私からグッドプラクティスを提案することはできないですが、地域密着っていうのを
各施設が自分の考えで地域密着はこういうものだと言われたらそれが正しいのだと思っています。
そのため、それは地域密着ではないと否定する必要はないと思います。

【佐野会長】ありがとうございます。地域密着というのは各施設がいろいろな考え方で捉えているの
でそれを否定する必要はないのではないかとということと、グッドプラクティスを示すのは良い方法で
はないかということでした。

竹内委員はいかがですか。

【竹内委員】私が一番感じていたのは、いろいろな施設の経営のこと等もあるため、難しいとは思
いますが、地域密着型であっても施設に入っている医師や歯科医師は地域の医師ではないところ
が多いので、何か困ったときに、地域で相談ができるような形があれば一番よいのではないかと
いつも感じています。

特に認知症の方だと関係性がすごく大事で、例えば歯科に認知症の方が訪れても関係ができ
ないと口すら開いていただけないので、関係づくりはすごく大事だと思います。様々な事業所の
医師が入っていらっしゃる施設が多いので、地域の先生方が入って地域のスタッフが関わること
があれば、例えば散歩されている時にもどこの施設の誰々さんたちだといったところから繋がりが
できると一番よいように感じています。

【佐野会長】ありがとうございます。関係性を大事に作っていくというご意見でした。

福澤委員はどうでしょうか。

【福澤委員】地域との結びつきを重視ということが第 3 条に書かれておりまして、そういったところ
から地域密着を考えたときに、私が薬局を営業する中でどうしているかということ、子供会等地域には
様々なコミュニティとしてのいろいろな作業がありますが、これらは一見薬局とは関係のないこと
のようですが、地域というものを見つめた場合、そういった行為も大いなる薬剤師の仕事だと思っ

おり、ただお客さんと薬を介してのみの関係ではありません。
時には健康に関するご相談や個人の悩める問題等の話も聞いたりして、相談の解決策が見出せばよいと思い、営んできました。

ただ単に地域の医療を担うという偉そうなことを言うのではなく、地域の一員として溶け込んだ形での薬局であり、地域の間人として動くということが大事なのではないかと考えております。

【佐野会長】ありがとうございます。薬剤師という役割だけではなく、住む人との交わりの中でいろいろな相談を受けたり、また日常的な対応をしたりという中で、その地域の一員としての薬局という立場ができてくるということでした。加藤委員のお話でもありましたが、長く地域にいるということでの繋がりとということで、やはり自然にできてくるというのが本当は一番望ましいところですが、地域密着型サービスと言った時に、それをあえて作っていかなければならないということで、どのようなことを地域密着とするのかということが課題になっていることだと思います。

それでは、どのような示し方にするかということをお話していきたいと思っております。これまでの議論の中で地域密着に必要なことやイメージ、或いは実際の経験などから地域の人に受け入れてもらうために必要なこと等が出てきたと思っております。

また、田中委員が最初におっしゃったように地域のとらえ方が少しできていないため、具体的な地域のとらえ方や地域の繋がりがだったり、或いは野口委員がおっしゃった顔の見える関係だったり少し弱いような気がしますので、それらを入れてもよいと思っております。

それから、地域密着のイメージを伝えるか、グッドプラクティスを伝えるかで、グッドプラクティスとして具体的なことがあまり出てきていないですが、顔の見える関係を作る等も実践という感じはします。

では、提案として盛り込みたいことを、どのように盛り込んでいくかということに入っていきたいと思っております。

いくつかご意見いただいた中では、地域密着型サービスの役割として、地域の中の役割を一つ担うというような意見が複数出てきていて、福澤委員がおっしゃったような、その地域に住む人との交わりの中で、或いは日常的な対応の中で地域の一員としてそこにあるというようなことも一つ、まとめられる意見のように思っております。

皆さんからのお話をまとめると、地域の中の役割を担う中で関係性を作っていくということや、顔の見える関係を作ること、そして、その中で施設を知ってもらい、地域との距離感を縮めていくということが繋がっていくように感じています。

全体のイメージとしては、こういったところでどうでしょうか。他に盛り込んだらよいことはありますか。

【田中委員】佐野会長がおっしゃった内容で僕はよいと思っておりますが、施設によって地域の大きさのイメージがバラバラのように感じ、顔の見えるぐらいの地域の大きさでよいということが、施設に示す文章で上手に伝わるとよいと思っております。

【佐野会長】そうすると、顔の見える関係っていうのはよく言われますが、この文言で伝わりますでしょうか。

【野口委員】私が顔の見える関係と言いましたが、保健センターでやっている保健連絡員というボランティアがありまして、その中でいつも地域をとらえるのにどのようなイメージでいらっしゃるかとお聞きするときに、自分の家の隣近所や2、3件先の家、少し広がって組の方達までは皆さん大体お顔が浮かびますが、隣の組やもう一本向こうの道の人達、区となると全然わからなくて、自分の組や道路で区切られた中などだと、あそこのおばあちゃん、あそこのお赤ちゃんだというのがわかると言われていて、そういったことを考えると顔の見える関係というのは自分の組や道路で区切られた中ぐらいの広さだと私もその時にとらえました。しかし、地域密着というのは、生活圏域の中に施設があるということを知ってもらうというような大きなとらえ方というのが一つ必要なのだと思っております。そして、その職員や利用者との顔の見える関係というのもう少し狭くなるとは思いますが、だんだん広くしていくために、圏域のいろいろなところに顔を出したりしていき、顔の見える関係は広がっていくように感じています。

よって、顔の見える関係もだんだん狭いところからだんだん広くしていくことを目指していただけるとよいと思っております。

【佐野会長】ありがとうございます。顔の見える関係を区画で作りながら、生活圏域の広い範囲に広げていくというようなイメージということでした。

おそらく、生活圏域となった時に町内会長や民生委員、地域ケア会議や運営推進会議に集まってこられるような方々から広くだんだん浸透していくというようなイメージだと思います。

そうすると、地域の捉え方として顔の見える関係ということをまずは中心にしなが、生活圏域の中の様々な拠点や人と繋がって、その圏域の中にある施設という認識を広く深めてもらうということのように思います。

【福澤委員】顔の見える関係というのは関係性を意味するものであって、範囲を意味するものではないと思うので、範囲として置き換えるのは難しいように思いますし、範囲についても施設の大きさによってさまざまだと思います。そうすると、地域密着型サービス事業とは何かとなった時に、その地域に根差した事業所というように解釈しておりました。

【佐野会長】ありがとうございます。顔の見える関係の質の部分についておっしゃっていただきました。例えば、地域の人との日常の交流の中で、顔の見える関係を築くというのはどうでしょうか。

【田中委員】野口委員がおっしゃっていた、具体的な地域のイメージの説明がわかりやすかったので、言葉ですべてを表すのは少し難しいと思いますが、この委員会の中ではイメージは共有できているように感じます。

【佐野会長】示し方が難しいですが、生活圏域に広げていくというようなイメージで説明ができればと思いますので、具体的な説明の文言については私と事務局で相談させていただき、案を皆様に共有させていただいて、ご意見をお伺いする形でよろしいでしょうか。

また、グットプラクティスを示すとしたらアンケートの中からだと限られてしまいますが、どうでしょうか。

アンケートを見ていると、地域に出ていく取り組みと地域の人を受け入れる取り組みの2つがあるように感じます。グットプラクティスといっても中身が大事で、例えば健康体操をやっているから大丈夫というより、健康体操でどのような関わりをしているのかということが大事だと思います。具体例の示し方については、グットプラクティスを示すのか、他の施設はこのようにやっているということを示すのか、どうでしょうか。

【福澤委員】文書で表す時は一般的なことを書いて、例を示すことが多いと思います。具体的な例を要約した形の大項目があつて、小項目として例が示されるのではないかと思います。

【佐野会長】大項目があつて、その下に具体例を示すということですが、大項目というのはどういったことでしょうか。

【伊藤委員】施設と地域の方が密着することによって生まれる利益を言えることよと思い、そういった利益のために実施している具体的な例示ができるとよと思いました。

【佐野会長】施設と地域が密着することで起こる利益を大項目で示して、そのための例を示すということでした。

【福澤委員】利益という表現を抽象的な表現に代えることよと思い、その下に例文として利益になるような話を示す形がよと思います。

【佐野会長】抽象的な言葉で説明をして、その下に例示を示すということですが、抽象的なことの中には議論の中で出てきた様々なことが入ってくるのではないかと思います。

【野口委員】利益というと地域と施設の利益のように感じますが、利益を得る主体は施設の利用者であつて、利用者のために地域と施設が協力していくというような書き方がよと思います。

【伊藤委員】根本的になぜ地域密着をしないといけないかというところで、佐野会長がおっしゃっていたように、隣の方が徘徊をしていたらその方の家に案内できるようなことが地域密着だと思い、それが隣の家の方ではなく、施設になったということだと思います。そうすると、そのような関係を地域が密着していて、お互いありがたい存在だと思い、それが利益だと思います。

【福澤委員】施設の人でも地域に住んでいる人のため、そういった観点でみると、施設は施設というアパートに住んでいる地域の人という関係が理想だと思い、それが地域密着型という表現になると思います。

【伊藤委員】福澤委員がおっしゃったことを文章でわかりやすく言うと、掃除に参加するなどの具体例を示すとよと思います。

【福澤委員】具体例はただの一例であつて、施設ができることはいろいろとあると思うため、難しいとは思いますが、それぞれの施設で考え、アイデアを出してほしいと思います。

【佐野会長】文言のことはこれから話し合っていくかといけないですが、以前大牟田市のスロー

ガンとして「安心してボケられる町」というのがあり、徘徊老人の声掛け訓練など、いろいろな取り組みを市が行いました。「安心してボケられる町」というのはすごくわかりやすいと思い、誰もがボケる可能性があって、ボケても受け入れてもらえるといったイメージがすごくわかりやすく伝わったと思います。この委員会を出す地域密着のイメージも、みんながその地域に住む人という表現はとてもわかりやすいと思います。施設に入っている人も地域の家に住む人も、地域に住む人として地域の中で暮らせるということで、「繋がり合える」というと地域の繋がりが足りていないようにも捉えられてしまうかもしれないので、この表現でよいかわかりませんが、「お互いに同じ地域に暮らす人として繋がり合える」といった表現ができるとよいと思います。

では、いろいろなご意見を踏まえて案を作らせていただく形でよろしいですか。

【田中委員】よいと思います。

【佐野会長】それでは、地域の大きさ、地域の捉え方ということと、地域密着とはこのような地域をイメージしているということを示して具体的な例を提示するといった形で進めさせていただいてよろしいでしょうか。事務局と相談して案を作成し、皆様にご意見をお伺いするという形で事務局よろしいですか。

【事務局(加藤係長)】かしこまりました。

【佐野会長】それでは以上で、本日の議論については終了させていただきます。

それでは、進行を事務局にお返します。

【事務局(水野課長)】 それでは、次第3「その他」についてです。

【資料4】介護保険最新情報 Vol.953 問28」をご覧ください。

この度、令和5年9月1日より介護保険最新情報 Vol.953の問28に基づき、入鹿出グループホームひまわりを本体事業所とし、西島グループホームひまわりがサテライト型認知症対応型共同生活介護事業所に移行いたしましたので、この場を借りて、ご報告させていただきます。本日、配布させていただきました「【資料5】サテライト型認知症対応型共同生活介護事業所の基準について」をご覧ください。

令和3年度介護報酬改定により、複数事業所で人材を有効活用しながら、より利用者に身近な地域でサービス提供が可能となるようにする観点から、サテライト型事業所の基準が創設されました。資料にあるとおり、サテライト型認知症対応型共同生活介護事業所に移行することで、人員や設備等の基準が変更されますが、それらの基準を満たしていることを、小牧市の方で確認させていただき、西島グループホームひまわりがサテライト型認知症対応型共同生活介護事業所に移行いたしましたので、よろしく願いいたします。

ご意見、ご質問がありましたらお願いします。

(意見、質問なし)

今後の委員会の開催予定についてであります。

次回の委員会は、認知症対応型通所介護、夜間対応型訪問介護の新規指定申請があった場合、令和6年3月15日(金)午後2時から市役所東庁舎5階の大会議室で開催予定です。

なお、応募がなかった場合は中止とさせていただきますのでご承知おきください。

報告事項は以上となります。

全体を通してご意見やご質問はありますでしょうか。

それでは、これもちまして令和5年度第2回小牧市介護保険地域密着型サービス運営委員会を終了とさせていただきます。

本日は、お忙しい中、長時間の審議にご協力いただきまして、誠にありがとうございました。(終了)